



# 富士見小だより

(チーム ふじみ)

No.9

大津市立富士見小学校  
令和5年11月 9日  
児童数460名

## ○子どものレジリエンスを育てること



小学校で子どもたちは、いろんな出来事に出会います。給食のお代わりも、家庭ではたくさん食べることが良いことですが、学校では周りの人のことを考えたお代わりの量を考えないといけません。そんな場面に出会いながら子どもたちは成長していきます。

子どもたちの道徳的な判断基準は①好きか嫌いか→②損か得か→③良いか悪いか、という順に育っていきます。赤ちゃんの頃は、おなかがすいたり、おむつが濡れたりして気持ち悪いという「嫌い」な環境なら泣きますし、気持ちよくなった→「好き」という判断で

泣き止みます。それが年齢を重ねることで②の、自分にとって「損か得か」という判断で行動するようになります。そこで様々な経験を通して③の、周り（社会）にとって「良いか悪いか」という判断ができるようになります。この判断基準の順番は、個人差があるにせよ、必ずこの順に育っていきますし、強いショック（トラウマ等）のない限りは、逆行しないと言われています。だから、次の判断基準につながる働きかけが大切です。

また子どもたちは、社会的な経験が少ない分、オブラートに包んだ言葉を使いません。変なものの変。嫌なことは嫌といいます。だから友達同士、赤ちゃんの頃には経験しなかった、いやなことを言われたりされたりするなど、ストレスを感じる場面に出会います。時には大きなトラブルになることもあるでしょう。

事前にルールをしっかり決めるなど、ある程度ストレスを減らす取り組みは大切です。ただ、いろんな人がいるのが社会ですし、その社会で自立できる力を子どもたちにつけるためには、ストレスを避けるのではなく、その中でよりよく生活していくための力が求められます。だから、そういうトラブルの場面に出会ったとき、相手にも気持ちがあるということ。嫌なことを言えば相手は嫌な気持ちになるということ。でも暴力は絶対認められないこと。だからこそ、言葉で気持ちをやり取りすることが大切だということを学んでいきます。そういう経験を通して③の、周り（社会）にとって「良いか悪いか」ということを判断できるようになっていきます。

ストレスを感じてもそこから回復する人の力を、レジリエンスと言います。ストレスを避けていてはレジリエンスは育ちませんし、道徳的判断基準の育ちにもつながりません。学校でも家庭でも、子どもたちがストレスから回復し、心に力を取り戻せる場所があるということが大切です。学校では、子どもの話をしっかり聞きつつ、今、何が大切なのか、どのような関わりをするべきなのか、全教職員が相談しながら、子どもの指導に当たっているところです。子どもたちの道徳的判断力の育成と、そのためのレジリエンスの育ちを支える、家庭や地域の皆さまのご協力を、よろしくお願いいたします。



# 12月の予定



曜日	月	火	水	木	金
日					1
予定					
14:35下校					1～3年
15:25下校					4～6年
日	4	5	6	7	8
予定		持久走大会 教育相談PM	おむすびさん(下) 読み聞かせ	持久走大会(予備)	
14:35下校	1～3年	1・2年	1～6年14:05下校	1年	1～3年
15:25下校	4～6年	3～6年		2～6年	4～6年
日	11	12	13	14	15
予定	ベルマーク回収	教育相談AM	おむすびさん(上) 読み聞かせ さざなみ号	ハートの日 2年色覚検査	ハートの日
14:35下校	1～3年	1・2年	1～6年14:05下校	1年	1～3年
15:25下校	4～6年	3～6年		2～6年	4～6年
日	18	19	20	21	22
予定	個別懇談	個別懇談	個別懇談 給食終了	個別懇談 大掃除 3時間授業	終業式 3時間授業
14:35下校	1～6年13:10下校	1～6年13:10下校	1～6年13:10下校	1～6年11:30下校	1～6年11:30下校
15:25下校					
日	25	26	27	30	31
予定					
14:35下校					
15:25下校					



## 11月の生活目標 「ていねいな言葉づかいをしよう」

この頃、富士見小の子どもたちの課題として、大人に対するけじめのある言葉づかいや態度に弱さがあると感じています。

例えば、先生に対して、「〇〇してー。」と、ものごとを頼むときでさえも友だち感覚の言葉づかいになっていることがとても多いです。よく受け止めれば、先生に対して親しみを持っているととれます。しかし、往々にして、これは、先生に対する甘えにつながり、教師の注意や指導が入りにくいことへつながることが多いです。

大人に対しては、適度な距離感で、けじめをつけた言葉づかいや態度ができることが、規律ある学校生活につながります。「〇〇してー。」ではなく、「〇〇してください。」と言えるようにしていきたいです。

また、友だち同士の会話の中で、「きしょ」「きも」「むかつく」「ださ」「うざ」「死ね」「お前」など相手をいやな気持ちにさせる言葉を簡単につかうのも気になります。

11月の生活目標は「ていねいなことばづかい」をしようです。生活委員会では、アンケートをつくり、自分の言葉づかいについてふりかえってもらったり、動画を作成しPRしたりする取り組みをしています。

大人・子どもに関わらず、人を大切にする言葉をつかったり、態度がとれたりできる子どもに育てていきたいものです。



学校では、その都度指導していますが、言葉づかいは学校生活の場だけでは育ちません。ご家庭では、どんな言葉が交わされているのでしょうか。子どもが気になる言葉をつかったときに、なぜいけないのか理由をつけて子どもさんに話していただくとよいと思います。また、表現方法を知らない場合もあります。本当はどうしたかったのか気持ちを聞き出し、その気持ちにふさわしい言葉を教えることも大切です。また、おうちの方の使う言葉づかいや態度も大切です。よろしく願いいたします。

## 交通安全教室 自転車にのるときはヘルメットを！

1年生と3年生は、JAFの方に来ていただいて「交通安全教室」をしました。安全な歩行の仕方について学びました。

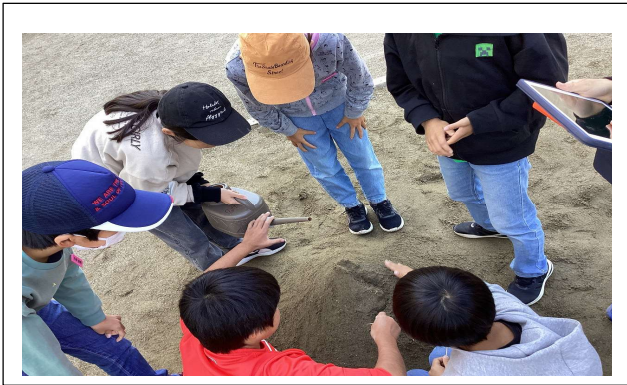
2年生は、路線バスや電車にのって京都市動物園に出かけました。その事前学習として、実際のバスに校庭へきてもらい、公共の交通機関を利用するときの乗り方やマナーについて学びました。

4～6年生は、DVD動画とワークシートを使って、安全な自転車の乗り方について学習します。

今年から、自転車に乗るときのヘルメット着用が努力義務となっています。富士見は、道が狭く坂も多く、歩行者や自動車との接触や転倒のリスクが高い学区です。お子様が持ち帰られましたワークシート（裏面に保護者向け資料）をご覧ください、おうちでも安全な自転車の乗り方について考えるきっかけにしてください。



# 学校の風景



理科の実験（5年）



保健指導（4年）



図書室前のすてきな掲示物。  
図書ボランティアの方が季節に合わせて作ってくださっています。  
ありがとうございます。



びわ湖ホール声楽アンサンブルによるオペラ「泣いた赤鬼」  
声量に圧倒されました。

## ～大津市・大津市教育委員会からのお知らせ～

### 【子どものこんな変化に注意してください】

いじめや友達との関係、学習のことなど、子どもが悩みを抱えていると、いつもと違う様子を表すことがあります。

- からだの調子（食欲がない。頭痛、腹痛、吐き気など体調が悪い。寝つきが悪い）
- 表情や態度（いつになくそわそわしている。イライラしている。学校に行くことを嫌がる等）
- 持ち物の様子（おこづかいが早くなる。持ち物がよくなかったり、汚れている。  
携帯に敏感に反応する・逆に全く見なくなる等）

★もし気になることがあったら、子どもを問いつめずに「あなたのことを大切に思っているよ」というメッセージが伝わるように話を聴いたり、担任や子ども支援コーディネーター等にご相談ください★